

事業番号 1-5

細事業名 公園緑地管理事業

担当課名 公園緑地課

会議内容 平成24年7月20日 事前説明会

#### 事業担当課より説明

#### ～ 質疑応答 ～

(評価者) 烏帽子山などの里山保全クラブ、寺ヶ池公園ではボランティアや市民活動で使っているだけことはいいことだと思う。烏帽子山の竹の伐採以外に、他にどのような形で取り組みをされているのか、もう少しだけ詳しく説明をお願いしたい。

(担当) 烏帽子の保全は、去年烏帽子形山全体が国の史跡に指定された。古墳や烏帽子形城跡もある。文化財の観点からも史跡に指定されたため、協議会の中で協議しながら考えている。市としては、管理用通路を付けるだけでも許認可が厳しくなるので、やりにくくはなる。例えば外周路を付けたり、全体がほぼ手付かずの里山状態になっていることから、今後それを維持していくために生態面からも検証していきたい。公園緑化協会でも生態の調査をしており、そのデータを利用して、例えばコナラの場合には、過熟なコナラもあるので、それは切らないといけない。手付かずイコール何もしていないのだが、里山としては人の手も入れなければならない、その点も見直していかなければならない。寺ヶ池公園については、今一番課題になっているのが寺ヶ池公園内を公園から出ずに1周するルートで、そのルート上の私有地を最近借りることができた。今後それを利用した周回路と、それとリンクした園地整備を考えている。しかし、寺ヶ池公園は計画決定は35haあるが、実際開設してるのが13haである。これから補助金も厳しいが、まだまだしていかなければならないと思っている。

(評価者) 付け加えて、これから10年間20年間どうしていくかの計画を緑化協会と協議しながら作ると思うが、ボランティアや緑化協会も一緒になって計画づくりをしていく考えはあるか。

(担当) それは十分取り入れたいと思う。実は「花の精」の代表者が公園緑化協会の役員であり、そういった意味合いでよりボランティアと協力して密接にやっていきたいと思う。

(評価者) 寺ヶ池公園は、市民まつりなどは良く知られていると思うが、その他にどのような行事や、どのような団体が使っているのか、年間利用人数はだいたいどのくらいなのか教えてほしい。それと都市公園の中で烏帽子形公園や寺ヶ池公園など大きな公園は無理だと思うが、団地内の小さな公園などの管理をその地区の自治会や老人会に委託するという考えはないのか。

(担当) 寺ヶ池公園の実際の来園者数はわからない。団体の利用としては、音楽祭、野外コンサート、恒例になった植木市、それから建物の中でも概ね月1回緑化教室等を開催して

いる。これらは、市の指定管理者としてのものであり、他にも協会独自でも様々な緑化推進に関するイベントを計画実施している。また、地域の小さな公園には、アドプトパークという制度があり、その制度に基づき、4団体が活動されている。例えば南花台第10公園では、地域の老人会に清掃していただいている。アドプト制度ということで委託ではないが、市から清掃用の消耗品を支給している。そういった取組みを今後も広げていきたい。

(評価者) 先日の現地見学では、維持管理という形と緑地の安全化という試みがあるという趣旨を聞いたが、極端に言えば「花の精」が実施していた壁面のフェンス部分は、植えてそのままの状態、草も生えたような状態でちょっとみにくいなあと感じた。これだけの専門的な分野をやっているなら、専門知識、例えば樹木医(木の医者)など、専門の資格を持っている人やあるいは勉強をされて、維持管理に専門的な目線で管理していただく、また、ファミリーで楽しめることや親しみを持ってもらうという点ではアイデアが不足しているのでは。寺ヶ池の横の水仙池ですか、あそこに池から水を引いてビオトープにして、都会の子供達が水生昆虫池などを観察できるような、例えば大阪一のビオトープの池にして、子供達が遠足や観察会で来れるようにするとか。寺ヶ池は水が豊かですから、石を積み上げて枯山水になっている部分に夏場は水を入れて子供の遊び場にしてはどうか。古タイヤのチップで作った安全な素材もあるので、そういったものを敷いて、3歳や4歳くらいの子供でも親がついて遊べるようにする。河内長野駅の上には花見の名所があるが、同じ公園であれだけの広さがあるのだから、人が集まるような樹木をもう少し植えて、例えば桜の木であれば、その下に大きな舞台のような人が集まれるようなものを設置するとか、樹木の剪定にしてもただ剪定するだけでなく、子供が楽しめるような動物の形にするとか、例えばアニメのトトロの形のカットなどは簡単にできる。色々な意味で、公園に人が集まって楽しめるアイデアをもっと出していくべき。また、林業の分野で、あの公園を利用して、例えばチェーンソーのコンテストを実施して、できたものを売るとか、それをメーカーやメディア、ホームセンターなどと協賛で実施する。あるいはトーテムポールの市民参加のコンテストや、奈良県では大洪水の後、私の提案で3年程前から実施しているのだが、面白い形の流木展をやっている。本来は処理するものを集めて、市民の方に自分で勝手に値段を付けてやっている。やり方・方法はいろいろあるが、いろんなアイデアを集めながら、人が集まるような年間のスケジュールのようなものがあるといいと思う。先ほどの表にこれだけのスペースをこれだけの人数で管理していると書かれていたが、極端な話、何もしなければ少ない人数でできるわけで、中味をもっと示してほしい。

(担当) 非常に多岐に渡った提言をいただいたと受け止めている。おっしゃるように、例えば現在、公園緑化協会には樹木医がいる。折角、専門知識を持った職員が身近にいるのだから、もっと専門知識を活かした事業を考えていかなければならないと思う。緑化協会の職員として寺ヶ池の事務所に常駐している。樹木医会というのが定期的に実施されており、2年前に寺ヶ池公園の木を使った講習会があった。一般向けではないが、ああい

うことを一般向けに、一般の方も勉強になると思うので、そういったことを広めていければと思う。

(評価者) 事務所の裏の大木の周りの土地は硬くて土質も悪い。このような場所は大木でかなり年数が経過していることから、土壌改良が必要だとか、いろんな視点があると思うので、そのあたりも考慮してはどうか。

(評価者) 難しいかと思うが、カフェがあれば休憩するのに素敵な場所になると思う。できないものか。もう1点アドブドパーク手法で人と人がつながる方向で作っていただければ良いと思う。竹の伐採の烏帽子の方やトモロスの方たちも、高齢化が進んでいるように思うが、若い人を育てようと思ったら、その人たちを活用して、竹を使って収益を上げるような方法はないのかなと。伐採したものを使って何か良い方法はないのかと思う。

(担当者) カフェについては、寺ヶ池公園だけでなくその他の公園についても、残念ながら現在は自動販売機しかないという状況。以前から申し出があるのは事実。折角、いい雰囲気なのだから、そこでお茶を飲みたいというのは聞いている、イベント時には「花の精」がハーブティのサービスをして下さっている、もう少し仕組みを工夫できないのかということが課題としてあるので、もう少し突っ込んで進めていきたいと思う。ボランティア活動を活発にさせて、そこで収益を上げられないかということについては、例えば現実には竹炭を製品化している。このようなもので上手く、ボランティアなどで儲けにはなくても、少し小遣い程度の収益はできないかなと考えている。そこは今後の検討課題であり、進めていきたいと思う。

(評価者) 市民まつりには非常に多くの方が来場し、毎年盛り上がってきているが、日頃あの近辺をよく通るが、意外と閑散としている。問題提起のところで、公園・緑地の管理に参加するとした場合、どのような作業まで一般市民が参加するのかとあるが、私達の地域でも年2回大掃除している。その時たまに子供達に来て、非常に和気あいあいと掃除しているので、年に2・3回程度、親子で参加でき、みんなで協力して、公園を大切にしようというようなイベントを行い、その後交流会を計画すれば子供たちも集まってくる。近くに団地もできているので、子供たちやお父さん、お母さんに一緒に公園に来ていただき、イベントで地域の方々が一緒に交流できるようなイベントを考えてもらえないか。また、この花を植えるとこの蝶が来るといふもの(バタフライガーデン)をもっとPRして、もっと整備すれば参加する人も多くなるのではないかと思う。それと、まだまだ開発する余地があるということですが、私自身グランドゴルフをしており、楽しく・山あり谷ありのコースができる可能性がある地域なので、周辺にそのような施設があればまた市外からも人が来るのではないのか、河内長野にはグランドゴルフ場がない。河南町まで行っている状態である。今は大師のグランドでしているが、グランドの状態も悪く、寺ヶ池公園はあれだけ広い土地があり開発するということがならばグランドゴルフができる場所が1ヶ所でもあれば、みなさんに知っていただくのにも作っていただければと思う。私の要望ですが。

(担当) 色々と要望をいただいたように、公園なので色々な利用形態あればいいと思う。そう

いうことができるように、整備を考えなくてはならないが、今のところ寺ヶ池公園をこれ以上広げるには新たな用地買収が必要になってくる。買収しなくても、何か安くする方法はないかと考えてはいるが、なかなか難しい面もあるので、今度発展させていきたいと思う。

(評価者) 先ほどの親子で清掃というのは、地域でやれば面白いと思うが何か考えはあるか。

(担当) 寺ヶ池公園は総合公園と言っても、地域の方が日常的に使っているという状況があると思う。今小山田のまちづくり協議会でラジオ体操をやっているという動きがあるというのを聞いているので、何かそういったものを上手くリンクできたら良いと思う。

(評価者) 市の公園の開設状況から維持管理の状況を聞いて、河内長野市には小規模な公園が多数に分かれているという特性がある中で、非常に効率的にやっておられるという第一印象を持った。その中で、説明で気を付けていただきたいのは、一言で言うと公園だが、総合公園と都市公園という、いわゆる都市基幹公園、都市域レベルの公園と、それから近隣公園、街区公園、緑道も入ると思うが、住区レベルでの公園、これは目指すべき方向が違ふと思うので、その辺のところを分けて管理していく。おそらく住区基幹公園の方が住民参加というか、市民協働というか、非常に身近な公園なので、そういったものが重要になってくると思う。今アドプトが4ヶ所という話だが、そういった市民協働を進めていくのが、住区基幹公園では求められる。今度の説明の時に、総合公園、特殊公園、特に寺ヶ池公園は量的充足から質的な充足という話があったと思うが、ここでは維持管理だけでなく、いかにマネージメントしていくか、運営管理をしていくかということが求められると思う。今回みなさんの話を聞いていると、寺ヶ池公園がいかに魅力的か、また、使いこなせていない、使い切れていないという話があったので、今後は是非とも寺ヶ池公園でやっているプログラムなどを紹介してほしい。その時に、現在寺ヶ池公園で行われているプログラムは、基本的に市もしくは協会が全てを実施している。私は、指定管理者が公園のプログラム全てをやる必要はないと思う。何をすべきかと言うと、プログラムをプロデュースするのが指定管理者の役割である。そこでプログラムを実際にやる担い手はプレーヤーであり、そのプレーヤーを発掘していく。指定管理者が利用者を公園へお招きするのではなく、公園をプレーヤーの方々にいかに使ってもらえるかが、寺ヶ池公園に課せられている次の課題だと思う。指定管理者が維持管理を、安心安全ということで、ベーシックにやっていくということと、もう一つは、いかに使ってもらえるかということの仕掛け、プレーヤーをどうするか。烏帽子形公園は、里山ボランティアの方々が関わっておられて、植生管理が課題になっているということだが、全体の植生計画や、植生の目標、将来像は持っているか。

(担当) 特に大きく改廃するという事はなく、今の里山の状態をどう維持するかという方針である。

(評価者) 途中でコナラが過密になっているという話があったが、これから手付かずの里山で、今後は市民ボランティアの方々と一緒に計画をつくっていくことが重要である。多分、このあたりを伐採したいという話が出てくると思うが、その時に目標となる植生像を、

この部分はこうする、この部分は手付かずで置いておくというような植生計画を、生き物の側からは既に始めているとのことだが、人の側から見た景観、視覚的な印象も踏まえて、生き物側からと人側からの景観についての目標像を持って植えていかないと、そこかしこでちぐはぐなものになってしまうと思う。公園には部分としての重要性と、全体としてのまとまりの2つがあると思うので、そういったことも心がけていただきたい。

(コーディネータ) これは全体的によく頑張っておられるとみなさん思っておられると思う。

(評価者) 公園や緑化に対して期待が非常に大きいというのはすごくある。どうも維持管理のベース的な基盤のところはよく頑張っているが、一方で、楽しみのところは多分やっていると思うが、見えてこなかった。

(コーディネータ) 3ページに都市公園の現況というのがあるが、都市計画上の公園の区分でしたか。

(評価者) 公園の種類、持っている位置付けが違う。日常徒歩圏の中の近隣住民の公園というのと、市のグラウンドになる公園というのは元々違う。市のグラウンドになる公園でこんなプログラムがある、こういう目標像を持っている。次に近隣住民のところではこんな課題を持っていて、こういう芽生えがおきているということを分けてお話をいただいた方がわかりやすいと思う。

(評価者) 資料を追加してもらってはどうか。都市公園の現況というのは、あくまでも外形上適格数であって、種別に対応した設置目的、利活用の可能性は全部違うということ。この中には緑道まで入っているから、ちょっとコンセプトが違うと思う。評価の対象にはなるが、その辺の種別を分けて、それぞれの公園ごとに、各公園を利活用した事業の構想は何があるか、利活用している事業に何があるのかの説明をいただきたい。それとあわせて、市民参加、協働、それぞれの公園ごとにどういう市民参加、協働を期待しているのかというコメントを入れていただいたら、本番での対話が上手くいくのではないかな。それと、どうも協働というのは、市民安上がり下請型協働に見える危険性がある。市民を安上がり的に下請に使う協働ではなくて、いろんな事業を興す、利活用するときの計画段階から市民に関わってもらい、それを参画というが、参画があつてこそ協働が成り立つだろうという問題意識に対応した市としての考えを聞きたい。その上で、評価をしてはどうか。文章で見ると、清掃除草なら参加可能となり、草むしりや清掃にだけ市民を使うのかとなる。

(評価者) 例えば、住区基幹公園、街区公園、加えてその他の都市公園が入っている。いわゆる提供公園は、2,000㎡に満たないような公園が沢山入っている。

(担当) 本市では提供公園はほぼ都市公園としている。

(評価者) そういうところでは、清掃・除草というのは当然やってもらうべきことかもしれない。

市民協働ということでいうと、清掃・除草の美化活動だけでなく、緑化活動もあるし、先ほどのプログラムをやってもらう、使ってもらおうということもあるので、どのレベルまで参加可能かというのは失礼かもしれない。

(コーディネータ) 先ほども申し上げたように、公園の設置目的、種類ごとに参画・協働の可能性の角度がそれぞれ変わってくるということ。それを一覧表に整理をした方が、市民のみな

んにわかりやすいのではないかと思う。まだ少し時間があるので、追加で何かご質問、ご意見は。

(評価者) 今「花の精」と協働の中で、花の精からは他に何かこのように工夫したいという意見はないか。

(担当) 以前からおっしゃっているのがカフェ。そういったものがないかというお話は以前からある。あと、抽象的な表現だが、もっと癒しの空間にできないのかという表現をされている。そういうことをできないかと。

(評価者) もう一步踏み込んで、癒しの空間で、どういう風を作っていけばという提案はないのか。

(担当) 寺ヶ池公園の中で、福祉施設的な整備ができないかというお話はあった。ただそれは都市公園の色々な制約の中で非常に難しいという回答をしている。

(評価者) 車社会に対応した駐車場の拡大についてはどう考えるか。

(担当) それも大きな課題である。現在の入口付近を買収して駐車場用地とする計画であった。計画ではあの辺を駐車場にしないといけないが、難しい。

(評価者) 周辺の住民だけが利用するのではなくて、市民の利活用ということを考えると、その辺がネックになってくると思う。

(評価者) 烏帽子の竹の話が出ていたが、出てきた竹はどうするのか。

(担当) 今いろんな利用方法を模索していただいているところ。一番高度な利用としては、粉にして肥料にできないかという実験を行っている。これは環境保全課と大阪府立大学とが連携して研究を行っている。あとイベントとしてマイ箸づくりや、竹アート、竹炭がある。

(評価者) ほとんど粉にして肥料にするのか。

(担当) 大半は切った竹を現地に並べて放置して、腐らせて土に還す。一部はそういった形で利用しているが、なかなか全量利用というのは難しい。